

## 概要版テキスト

### (第1部 定年後も働くのは、もう普通！?)

(村田 綾さん)

今日は、彩の国シニア応援大使の三遊亭鬼丸さんからシニア世代の働き方についてお話をお伺いします。

大使は今年で4期目ですが、今年もいろいろな場所へ取材に行かれたと聞いています。今年はどうなことを聞かれてきたのか皆様に紹介します。

はじめに、働くシニアの皆さん、次にシニアを必要としている企業の取り組みなどを伺います。そして最後に、大使からシニアの皆さんへエール、鬼丸師匠の落語をお届けします。

(三遊亭 鬼丸さん)

第1部はこれから働こうか悩んでいるような方、第2部は企業を経営している方がシニアを雇うメリットを紹介します。第3部は気楽に落語を聞いていただければと思います。

(村田 綾さん)

まず働くシニアについて伺いたいと思います。そもそもシニアって、何歳くらいからなんでしょう？

(三遊亭 鬼丸さん)

大使になる前は60歳定年というのが頭にありましたので、60歳過ぎたらシニアだという考えはありました。村田さんはどう思いますか。

(村田 綾さん)

私は働かなくなったらシニアだという感覚はありました。私が子供のころは60歳過ぎて働いていた人はあまりいなかったと思います。

(三遊亭 鬼丸さん)

年金の受給年齢が上がったことやみんなが元気になっていることが要因かもしれません。60歳でも体力があって、やりたいことがあるという人も多いと思います。

(村田 綾さん)

そうですね。ところで、内閣府の『令和2年度高齢社会白書』によると、60～64歳の約7割(70.3%)、65～70歳の約半分(48.4%)が働いています。さらに、働いている60歳以上

の人のうち、9割近く（87.0%）が「70歳以上まで働きたい」と考えています。

**（三遊亭 鬼丸さん）**

僕らみたいな落語家は喋れる間は現役です。自営業の人は感覚が似ているかもしれません。会社員の人も60歳過ぎてもそこで働く人や遊ぶ以外に刺激が欲しいということで働く人もいると思いますので、そういう数字になるのかもしれませんがね。取材に行っても60代は当たり前前に働いていると感じます。

**（村田 綾さん）**

今年はどうな思いをもって取材に行かれましたか。

**（三遊亭 鬼丸さん）**

テーマは3つあります。

1つ目は経験を活かすか全く新しいことをやるか、2つ目は若いころとは違う仕事のやりがい、3つ目が若い世代との仕事上の付き合い方です。

**（村田 綾さん）**

最初の視点は「経験を活かすか、挑戦するか」。鬼丸さん、出会ったシニアを紹介してください。

**（三遊亭 鬼丸さん）**

はい。大手化粧品会社で品質管理をしていた方で、同業他社でその経験を活かしているシニアです。仕事が同業でうまくスライドできていたので、会社も大手の経験を取り組むことができ喜んでいました。そういう方は、現役時代に打ち込んできた経験があるからこそだと思います。では、取材した映像を見てみましょう。

**（株式会社ビーテック 高橋 初平さん）**

質問 現役時代の経験をいかして働く魅力は何ですか。

答え いままでの経験を大いに活かせることです。現役時代と違い、週に1日だけで働いていますので、ストレスもたまらず有意義に過ごすことができます。あとは、経験が今の会社の役に立って喜んでいただければ幸いです。

**（村田 綾さん）**

新しいことに挑戦する方もいらっしゃいましたか。

**(三遊亭 鬼丸さん)**

食品卸の会社からスーパーマーケットが新規で始めた農業へ挑戦された方がいます。ゼロから農業を始めています。全く新しいことを始めているので、人生を2倍楽しんでいるとも言えますね。では、取材した映像を見てみましょう。

**(株式会社ケンゾー（観光農園ロコファーム） 近藤 道男さん)**

質問 新しい挑戦の楽しさ、シニアと農業の相性は？

答え 取り扱うのが、植物なので、手間をかけたただけ返ってくるのが魅力です。シニアは人生経験が豊富だと思います。その経験を活かして植物にどう接するのか自分なりに考えることができると思います。自然と向かい合って生活できることは自分にとって非常にプラスです。

**(村田 綾さん)**

次の視点は「選ぶ、見つけるですが」どんなシニアがいましたか。

**(三遊亭 鬼丸さん)**

段ボール工場でしたが、従業員のシフトを会社ではなく、従業員自身が決めるというものでした。病院の都合など従業員同士で融通をきかせていました。1人分の仕事を3人で分けることによって、会社と従業員双方にメリットがあるものでした。では、こちらもお話を聞いてみましょう。

**(松崎紙工株式会社 松崎 義一社長)**

質問 ワークシェアリングは良い取り組みですね。

答え ワークシェアリングは働く側、雇う側の両方がウィンウィン。シニアにとってはなおさらウィンウィンだと思います。ただ、シニアが長く働くためには、設備投資は必要です。そういう部分では惜しみなく投資を行っています。これからもワークシェアリングは続けていきたいと思っています。

**(村田 綾さん)**

最後の視点は「若い世代と働く」です。現役時代の知識・技術を若い人に伝えて育てるのもシニアの役割だと思います。どんなシニアに出会いましたか。

**(三遊亭 鬼丸さん)**

現役時代には、いわゆる重いポストを経験された方ですが、20代と一緒に働いていました。お昼ご飯を一緒に食べに行っているようですが、お互いに気を使わない、肩の力を抜いた関係です。では、お話を聞いてみましょう。

**(株式会社ティー・アイ・シー 桐生正尚さん)**

質問 若い人と仲良く働く秘訣は？

答え あまり「先輩」、「後輩」などを意識せずに対等な存在として付き合うことです。

**(株式会社ティー・アイ・シー 岡田 晃典さん)**

質問 シニアと仲良く働く秘訣は？

答え 分からないことがあったら、気後れせずに質問することです。

**(三遊亭 鬼丸さん)**

仲良くといっても今の若い人の気質を理解しながら働いているシニアだと思いますね。

さて、これから紹介するシニアは若い人に寄っていかないという人でした。商品知識が豊富ですが、聞かれたら答える程度という方でした。いわゆる職人氣質ですね。会社としては豊富な商品知識を持っているので、居てくれると安心のようです。確固たる知識などがあれば、このくらいの付き合い方もいいのかなと思いました。では、お話を聞いてみてください。

**(牛山電工株式会社 荒井 七郎さん)**

質問 経験を活かす仕事を選ばれていかがですか？

答え 現役時代に経験した仕事を定年後も続けられたことに幸せを感じます。

現役時代頑張ってよかったなと思います。

**(村田 綾さん)**

継続雇用であっても、新しいことに挑戦していても、結局、定年までに培ってきた経験や知識って、とって大切なんですね。

**(三遊亭 鬼丸さん)**

そうですね。若手に勝てる部分として経験は確かにあります。ただ、経験に依存しないで常に好奇心を持っている人は、老け込みもないし、周りとの関係も良いと思います。好奇心を持つことが結果として働きたいという気持ちにつながるのではないかと思います。

**(村田 綾さん)**

埼玉県内では、2015年の国勢調査によると41万人を超える65歳以上のシニアが働いています。1995年以降の20年間で、約2.5倍になりました。働いてみたい、働きたいと迷っているシニアの皆さん、埼玉には様々な働き方、活躍できる場がたくさんあります。ぜひ、一歩踏み出しましょう！ 第2部は、「シニアに働いてもらいたい」と考えている企業の方々のお話を中心に伺います。